

(武野正義) 論文内容の要旨

主 論 文

Impact of Metabolic Syndrome on the Long-Term Survival of Patients With Acute Myocardial Infarction -Potential Association With C-Reactive Protein-

急性心筋梗塞患者におけるメタボリック症候群の予後に与える影響
～C反応性蛋白との関連性について～

Circulation Journal 2008 Mar;72(3):415-9

長崎大学大学院医学研究科内科系専攻
(教室主任代理：河野 茂 教授)

緒 言 疫学調査ではメタボリック症候群は心臓血管死の独立した危険因子であると言われているが、急性心筋梗塞患者の予後に与える影響は分かっていない。

対象と方法 2000年1月～2002年12月までの3年間に国立循環器病センター冠疾患集中治療室に入院となった連続初回急性心筋梗塞症例のうち、感染症を併発した4人を除く461症例(男性/女性:326/135, 年齢:67±12歳)を対象に後ろ向き検討を行った。メタボリック症候群は次の5項目中3項目以上を満たすものと定義した。すなわち空腹時血糖>110mg/dl、血圧>130/85mmHg、中性脂肪>150mg/dl、HDLコレステロール<40mg/dl(男性)<50mg/dl(女性)、Body mass index>25kg/m²である。血糖や脂質は9日目(中央値)の結果で判定し、血清C反応性蛋白(CRP)は2日目、15日目(いずれも中央値)の数値を調べた。CRP測定感度は0.06mg/dlで0.3mg/dl以上を陽性とした。

結 果 461人のうち172人(37%)がメタボリック症候群であった。メタボリック症候群の患者は若く、女性に多く、全身性動脈硬化疾患の合併が多かった。入院2日目のCRP値には差がなかったが、15日目CRP値はメタボリック症候群で有意に高く、項目数が増えるとともにCRP値も高かった。

観察期間 17.6 ヶ月 (6.3-30.1 ヶ月) において、主要心臓イベント 124 人 (心臓死 20 人、心不全 24 人、非致死性心筋梗塞 11 人、血行再建術 69 人) を認め、累積イベントフリー生存曲線はメタボリック症候群 (+) で有意に低く、非調整オッズ比は 2.05 であった。さらに年齢、性別、Killip 分類、多枝病変、低心機能、CRP 陽性を含めた多変量解析ではオッズ比 1.83 でメタボリック症候群は主要心臓イベントの独立した因子であった。また、15 日目の CRP 陽性は独立した死亡予測因子であった。CRP 陰性と陽性、メタボリック症候群を有しない (-) と有する (+) で患者を 4 群に分けて主要心臓イベント発生比を見てみると CRP 陽性でメタボリック症候群 (+) 群は CRP 陰性でメタボリック症候群 (-) 群の 2.56 倍であった。

考 察 急性心筋梗塞を発症した患者の中でもメタボリック症候群を持つ患者はより若くして心筋梗塞を発症し、全身性動脈硬化疾患を合併しており、その後も主要心臓イベントを起こしやすいことが分かった。メタボリック症候群が動脈硬化危険因子の集合体以上の意義を持つかは定かではないが、その病因に全身性炎症との関連が示唆される重要な予後予測因子であり急性心筋梗塞患者において確実に評価をして積極的に介入していくことが必要であると思われる。